



運か不運か

流し圓タクに乗つたら、イキナリ運轉手が旦那某大臣そつくりな顔だ、身寄りか夫れとも双兒ですかとの珍問に僕はハタと困つたが儘よ言つて終へと、「何に身寄でもなければ兄弟でもない他人のそら似だが學校は同じ級であつた」と答へた、すると旦那は不運ですネと同情してくれた、世には大臣となると好運だし、野に在つて心自ら安ずると不運だと思はれて居る。夫れで終日浮木をながめて居る釣人を馬鹿と評する者もあるが人のつりするをながめて居る者が更らに馬鹿だと云ふ、好運か不運か馬鹿か非馬鹿か。知らず人間の本質を。某脳病院に入院して居る患者に君は「何故にこんな處に居る」かと尋ねたら其の患者が答へ

て云ふに「世間の人間が狂人となつたから僕が狂人扱ひをされて居るだ」と考へ様では精神的脱線者とか脳味噌の異状者が狂人だ、世の中には此種の人間がうよ／＼して居る。入院患者の言必ずしも狂者の言とは聞かれない、狂者相當の觀察である。某學者が入學落第者に同情した一文を公にした、すると落第したつて後にエラクなればいゝぢやないか、その方が輝かしく目立つなどと思つたら大間違ひだ、大體「大器晩成」なんて言葉があるから大間違ひだ、學業優等できへも社會へ出たら思ふやうに出世が出来ない、まして成績不良で社會に立てる筈がない、無能者の成功者なんでもは何千人、何萬人に一人しかない、無能者の成功は一步を誤れば不具者になるまでの事ぢや、うまく世渡りをするとも難し立て

注

本欄は讀者諸氏の利用に提供す、治安と風俗とを害し又は人身攻撃に涉らざる限り奇想天外的の寄稿を望む、一文は四百字位にて取捨は編輯手に一任、原稿は道路の改良編輯部宛のこと。

るには當らないと反駁する者がある、いづれにも主張の理由はある、並木を植ゑた迂曲せる道路にも直線式なコンクリート道路にも一利一害は伴ふものぢや運も不運も人事を盡して天命を俟つが人生の正道ぢやと愚老は思ふ、在官者も不在官者も合格者も不合格者も此に着意修養が第一でござる。
(赤海老生)

先人の足跟容易な

らぢ

地方自治體の首腦者理事者の更迭が頻繁を極めて専門的經營能力と技術能力とを絶對條件とするパス事業の如き交通機關事業に對して無經驗な淺薄な通俗的な智識に依つての新方針にて次から次へと新理事者の制肘を受けねばならぬ組織だから其事業上

に幾多の缺陷を生じ損失を來たさしむるも
ので公營が私營に劣る所以は其原因故に存
するとの説（乗合自動車三月號堀内良平氏
の所説）には賛同せざるを得ない、明治四
十四年の市制改正に當り時の床次地方局長
の意見で六大都市に市參與を設置すること
を得るの規定を設けたるのは斯る通弊を除
去せしめんとするの主旨に出たのである、然る
に東京市の如き市長助役の權限を擴張せん
として市參與を局長としたので電氣局の事
業は環境にかへて加へて赤字財政を現出し
事業の行詰を生じたものである、制度の適
否もあるが當局人物の如何かが問題である
とは言ふものゝ先人の樹てた方針を踏襲す
ることを以て無智無能と見らるゝを恐るの
餘り妄りに既定の方針を變更するが如きは
斷じて戒心せねばならぬことである。（有
樂生）

鹽其味を失はば如 何

鹽其の味を失はば用なし外に捨てられて
踏まるゝのみである、精神が散漫で理義が
朦朧で獨よがりの代議士であるなら味を失

ふた代議士である、用なき鹽は外に捨つれ
ば處置がつく、味を失ふた代議士は生きな
がら火葬場にも送られないから國民は其處
置に窮せざるを得ない、とは「我觀」の記
者の觀察である、同感に堪へぬ、思想の自
由を重壓する策を高調したり、政敵の揚足
を取ることに熱中したり、黨勢維持を之れ
事としたり唯我忠君の自尊心を押し賣りし
たり、確固たる信念なくして天下の形勢を
觀て工作したり、天の一方に外敵の飛行機
を夢想したりする裡に飢餓線上には日に日
々に群集が蝟集する、橋は腐朽する、道路
は破損する、河川は荒廢する、山嶽は禿化
する、矛盾、自己撞着が主張せらるる、空
虚な人間としての暴露が公演せらるる、斯
くて裁判官は不足する、警察監獄は繁忙を
極める、賣るべき兎や犬がなくなる、學者
は逃避する、蓬髮短袴者の棍棒杖が濶歩す
るが如き状態となつたと假定したなら其原
因は何所に存し、其結果はどうなるか、事
を慎重に、思を敬虔に、行を節し、言を制
するは今日尤も留意すべきことではなから
うか。（眞愛國生）

交通道德の普及向 上を叫ぶ

電車、バスに乗らんとするの時、前に待
つ客を尻目にかけて後から來ながら飛び乗る
ことの心悪きは云ふに及ばず、車内に「お
煙草御遠慮願ひます」との掲示では遠慮す
るもせざるも乗客の勝手だとばかり吹煙す
る人の厭ふべきはあらじ、込み合ふときの
苦さは我れのみならず人も同じかるべきに
われは顔にひざをひろげて座席の廣きをは
かり、又は二つの吊皮を双手に握りてゆづ
らざるが如きすこしの遠慮でも大損失であ
るかの行動を執る人を見れば、はやく下車
あれがしと祈るは一人や二人のものに止ま
らじ、麗人を見て席を譲らんと立ちあがれ
ばむさくろしき老婆の「おありがたう」か
寧ろうれしかるべきことぞかし、變態性慾
病患者か夫れとも異性とあなどりての事に
やとかく女性の手背などにわざとらしく手
を觸るゝわざは腹立たしき限なり、夏の暑
さに車内は蒸さるゝが如き心地する折に運
轉臺の入口に立ちふさがり吹き來る風に惡
臭を放散する客は即座に下車せしむる途な

きにや、雨降りに車内で濡れたるオーバーを着たる、長き佩剣を引きずりたる、拍車つけたる長靴を無雑作に動かす、われも人も苦きおもちにて思はず眼を合はすことぞかし、酔ひたる客の熟柿臭き、きを吹き或は熟睡して左右によりかゝるなど眉をひそむる業なり。車内もさることながら歩道とてゆききの邪間物なからましと願ふに小車荷物露臺など所せまきまで横へたるなどきびしく禁ぜられたく思はる、特に頑是なき小供等のローラースケートやキャッチボールや羽根つきや小僧大僧の自轉車を乗り入れ行くなど交通道德を無視する所爲は到る所で見らるゝ光景である、己れのみありて他のあるを意とせざる徒輩のことなるべけれど厭ふべきことなり、フト見上ぐれば「國賊某を葬れ」「兇賊何々直輸入の元祖某男を倒せ」と云ふの如き立看板がある、何んとか警察力でその撤去を求むるの外なきことならずや。(F.S.女)

權利あれば世は泰

平か

「女性向上の道」と題して有名なガンドレ

假面劇

ツト恒子女史は「男女の權利が平等でない限りは本當の正しい清い生活は實現しないでせう」と結論し社會の不安家庭の不和の悲惨事は男女に別々の貞操標準が示されて大抵の場合男子の不品行不身持に其原因されて斯る苦惱が生ずるのであると論ぜられて居ります、勿論當然の御意見に相違はありませぬが權利が平等にせられたら義務が必ず履行されますのでしようか權利は平等であつても亂臣賊子と嘲けられて之を首肯しなければならぬ義務は生じない、十二分に權利と榮譽とを持つ者でも不合理にも社會より葬れと見ず識らずの地方人から盲目的意見の發表せられて沈黙を餘儀せられねばならぬ關係は生じない、否權利なくとも白晝公然人命を奪つて陰々裡に被護を受ける社會状態では敢て奇矯の言を公にして無智者を昂奮感激示唆するも之を制止するの途を與へられざる人間界では、免かれて罪なきを愧ずと疑はるゝものゝ、敢て被疑者を製造するもとまで恠まるゝものゝある世の中、其處には權利義務のみに依つて世は泰平なること得ると思惟するは適當であらうか、權利や義務を云爲する前に謙遜、自省

克己協力、敬虔、忠節、柔順の諸徳を養ふの必要がありはしないか路床の堅牢が工作せられて甫めて鋪裝の完璧を施し得るのである、路床が軟弱劣悪であつては鋪裝の完全は到底望み得られない路床工事の手扱は須臾にして崩壊あるのみである、人間社會もまた物理的法則を無視することは許されぬ。吾れ人共に熟思を要する事である。

(房文生)

享樂婦人への警鐘

とは

九州帝大農學部養蠶學教授田中義麿博士に依つて發見されたる事は同博士は多年家蠶の遺傳學的研究を行つてゐるが、最近レ線照射が遺傳學的に如何なる影響を及ぼすかに就て實驗的研究を行つた結果、レ線の照射は家蠶の第二染色體に異變を生じさせる事實を發見したとのことである。之れに依るとレ線照射によつて性染色體の異變が生じた家蠶同志から生れるものには畸形なものが多いが人間に於ける場合も同様でレ線照射による避妊法を施し其効力消滅した後の受胎兒は必然畸形たるを免がれない

之れが一つ、萬延元年八月八日の生れで七十六歳の老嫗が新聞雜誌も讀み得ないので文字を覺へたいとの一念から小學校の聽講が許され日々孫娘位の女教師から教を受けて居る、其本人の談る所では「寺小屋では片假名を教へられてゐないので新聞雜誌を讀むのに事足り、手紙も思ふやうには書けず不自由で仕様がないので校長さんにお願ひしたところ快諾され小さい方と一緒に讀み書きを習ふことになりました、手紙位は思ふ様に書けるやうになりました」と願つております、一時は學校には行きたいが何だか、恥かしい様な氣がしましたが今は唯文字を覺えたいの一念です、でも小さいお友達に負けてはならないと氣が氣でありません……との孜孜として勉學し老も享樂も顧みないと云ふことが一つ。人の道を忘れた享樂婦人達よ何んと思はるゝか。(ワイエ)

軍器の進歩と併行

せよ

科學進出の速さは驚くべきものであるが特に軍器科學に於ては一層著しき次第であ

る。陸軍省兵器局長多田少將の公表したる所によると感覺科學兵器の例として第一に視學補強のものは測遠機(測距儀)であつて肉眼の達し得ざる遠距離の目標距離を精密に測定するもので其他に光學兵器がある夫れは双眼鏡大小、對空双眼鏡、砲隊鏡、觀測鏡(潛望鏡)大小、パノラマ眼鏡、機關銃照準具、小銃眼鏡、測遠機(野戰用、對空用)、爆彈投下照準具、高射砲標準具、航空寫眞機等である。聽覺補強のものは飛行機に對しては空中聽音機、艦船に對しては水中聽音機、陣地戰に於て地中作業には近接を察知する爲の音源標定機がある。補經置を測定する爲の音響標準機がある。補經科學兵器としては光學電氣學の應用によりて有線無線の電信電話、光線電話、音波の電化に依る各種音響通信機等其外大スピード科學兵器として最新式戰闘機、小型戰車輕機、三七耗機關砲、携帶無線電話機、光電話機等がある。腦髓科學兵器として自動的兵器、統御的兵器、自動定無器があつて腦髓の代理又は補強に用ゆるが自動的兵器は船の自動操縱裝置、自動石炭投入裝置、自動火災報知器がある。統御的兵器は高射

砲觀測具、探照燈遠隔指揮具がある、算定的兵器は統御的兵器中に包含されてある。威力科學兵器はロケットの應用、電氣砲、怪力線或は眩惑光線、化學兵器、細菌兵器の類である。軍力の競争は人間より器械へと科學的進歩の日新月异の狀態は躍進の日本としては誇るに足らんが國家全體としての優越力は各方面の均勢を失なつてはならない就中道路事業の如き最も其進展を圖らなければならぬ。(好國生)

果して光は東方より

り來るか

新滿洲の建國に當りて王道主義を其精神として鏡を我日本に仰ぎ光は東方より來ると唱へたものがあつた。我帝國にも皇道主義を遵奉して光は東方より來るとの自信を有するものがある。一部の基督教徒は神の國の出現は極東の日本に於て見らるゝので眞の光は東方より來ると主張して居る、佛教徒のある方面では佛の光は印度に寂滅して日本から發光すると唱へ、神道者の一部は神ながらの道は遂に世界に光被するに至るゝと信するものがある。少くとも確た

る信念を把握し高崇なる理想を有するの人士は光は東方より來ることを念願として居るのは事實である、蓋し世界の宗教は殆んど亞細亞に於て創造せられて居る、即ち基督教は小亞細亞のユダヤに佛教は印度に儒教は支那に神道は日本に於てである。而して泰西諸民族は専ら物質文化に開展したるも其文化は今日既に廢頽に傾して居る、物質文化は行詰つたのである、もがきにもがいても此行詰りは打開されない。今や歴史は轉換期に際する、此秋新時代を指導し行くの光は何處より來るか果して光は東方より來るか我等日本民族は其確信を有することに於ても痛快を感ずる、具體的に言へば光は極東の日本帝國より來らしめねばならぬ。日本帝國の光は全世界に新時代の燈臺たるべきである、否燈臺たらしめねばならぬ。彼の滿洲は已に我が光を視つて居るではないか、夫れ然り然しながら我等國民は果して斯くあらむべく其資格ありや否即ち發光體として其發光力ありや否一大疑問である。顧みて思ふに我等は餘りに自己中心主義である獨よがりである。己れ人に優れりとの念が強大すぎる排外的思想が餘

りに旺盛であるまいか、一友頃日某宗教團の教化事業に従事せんとして任に地方に赴くの際來りて共に談する所があつた。其要點を擧ぐれば自己中心主義の排斥でつた。事例を擧示すれば我國の教育界に於て眞個に教育勅語の大精神を體得し自己中心主義を放棄して其職務に従事せるものありや、神佛耶三宗教界に於て各其信仰する神佛に融化し自己中心主義を犧牲として奉仕するものありや。遺憾ながら一人の我れこそ夫れなりと言ひ得るものあらざるのである。宗教の宣布は勿論他の教化事業でも其局に當るものが其信仰する一大精神、佛、耶乃至教育勅語の大精神に融化せんとを專念し挫折する所に人格の向上があつて他人を感化する力が發散する理である、自己に何等向上の精神なく、發展の努力なく、敬虔なる人格を有せざるに如何で他を指導し得るの力あるべきか、自己中心主義を固守しながら光を萬國民に輝さんとするは己を知らざるも甚しきものであると謂はなければならぬ。光は東方より來らしむるの好機に遭遇したる我々は茲に覺醒して克く發光し得るの力をそなへなければならぬ

乞ふ長夜の夢より醒めて天の使命を完ふせんことを、世界の道をして日本から出發せしめよ。(比路誌生)

偶感

小島 溪 泉

春夜風和雨脚輕
 夢回簷溜故園情
 流鶯歌曉何枝去
 翠柳紅葩帶露清